

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173200510		
法人名	医療法人社団 三愛会		
事業所名	グループホーム「里の家」1階ユニット		
所在地	名寄市西1条南4丁目17番地		
自己評価作成日	令和元年7月17日	評価結果市町村受理日	令和元年11月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_007_kani=true&amp;JigyosyoCd=0173200510-00&amp;ServiceCd=720&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_007_kani=true&amp;JigyosyoCd=0173200510-00&amp;ServiceCd=720&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	令和元年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は平成15年11月に開設し、今年で16年を迎えます。徒歩圏内には、官公庁、学校、会社やコンビニ、マンション、理美容院等が多く、便利な生活がしやすい環境にあります。運営推進会議や避難訓練等では、開設時からお世話になっている方も居られ、入居されている方々に温かい目を向けて下さる理解者として心強さがあります。入居者のご家族にあっては、常に親身な関わりをして下さり、数多く足を運んで下さいます。少しでも多く食事が摂れて欲しいと、嗜好品を差し入れて下さる方や、一緒に楽しむ時間や過ごす時間を大切に下さるご家族、ご本人が安心して過ごせる様に次の訪問日を約束して帰られるご家族、落ち着かなく不安そうな時には、泊って見守って下さる家族の方、心配事を抱え相談して下さいなご家族さん等、関係性も良く、入居者さんを思いやる気持ちが伝わって来ます。そんなご家族の力をお借りしながら、「里の家」での生活が穏やかで、そして健やかな日々が継続できる様、日々取り組んでいるところです。

当法人はグループホーム、デイケアセンター、名寄三愛病院などを運営し、毎月業務調整会議を開催して、医療や災害時の協力体制など事例を共有し、連携して質の高いケアに努めています。当事業所はJR名寄駅に近い住宅地に位置し、近くに市役所、郵便局、小学校、コンビニなどがあり利便性に恵まれている。鉄筋コンクリート造り2階建ての1階と2階に各1ユニットがあり、双方同じ造りになっている。食堂、居間は一体的で明るく小上がりがあり、温度・湿度など適正に管理され、大学の実習生と利用者が一緒に作ったちぎり絵や折り鶴を飾ったり、季節の飾り付けをして家庭的でくつろげる空間になっている。中庭はきれいに手入れされ、ツツジ、アジサイ、紅葉が季節を感じさせてくれる。菜園でとれた野菜が食卓を飾り、新鮮でおいしいと利用者の評判も良い。町内会の一員として班長を引き受け、利用者は散歩時には地域住民と会話したり、事業所行事(交流会、敬老会)には家族、地域住民、利用者、ボランティアが参加して交流している。又、大学の実習生を受け入れ地域に貢献している。職員は親切、笑顔で話やすく、利用者が自分の家のように安らぎ自由に生活できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲げ、改めて気付きの場としている。又、勉強会で学ぶ機会もあり、理念の大切さを意識し、実践に繋げている。	事業所理念を各ユニットに掲示して黙読確認し、内部勉強会で共有して実践に繋げている。理念は自分の家の延長として考えている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に迄ではないが、運営推進会議や避難訓練、事業所の行事を通じて自然な付き合いが出来、今年度は、町内会の班長を受けている。	地域の一員として班長を引き受け、散歩時の挨拶、交流会などの事業所行事に地域住民が参加している。敬老会にはボランティア(オカリナ演奏)が来訪し交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の現状の報告や避難訓練時に入居者と接してもらい、認知症への理解を深めてもらっている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で日常の過ごし方や、事業所の取り組みを報告し、その中からの意見交換を参考にさせて頂いている。	2ヶ月に1回開催し、利用者、家族、地域住民(町内会長、民生委員他)、地域包括支援センター職員などが出席して、運営状況、入・退去状況、職員研修、行事などを報告して、意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。運営推進会議録を家族等に送付している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者には、事業所の実情報告やケアサービスについて、その都度連絡や相談がしやすい関係にあります。	市役所は近くにあり、訪問して利用者の状況などを報告し、情報交換や指導、助言を得ている。運営推進会議への市担当者の参加や市の事業であるリハビリ専門職(作業療法士)の年3回の来訪、研修会の案内などを得て協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に一度身体拘束廃止委員会を開き、身体拘束に繋がらないケアについて話し合っている。又勉強会やカンファレンスを通し、不適切なケアがない様、取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を開催して話し合い、外部研修に参加し、身体拘束をしないケアの勉強会を行って、身体拘束をしないケアに努めている。玄関は防犯のため夜間のみ施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会、定期的な勉強会を行い高齢者の虐待、身体拘束について学習し、防止に努めている。			

グループホーム「里の家」1階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者で成年後見制度を利用されている方もいるが職員全体が理解しているとは言えず、今後の課題と考える。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にご家族、ご本人に来ていただき、生活の様子や施設内を見てもらふ事もある。入居時に契約書等の説明を行い、理解、納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で入居者、ご家族の意見を反映している。面会時やケアプラン説明時にも、ご家族から意見をいただく事もある。	利用者の意見、要望は日常の会話から意向の把握に努め、職員が共有している。グループホームだよりにより利用者個々の様子を付記して家族に知らせ、家族来訪時に意見、要望を聞いて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月のカンファレンスや会議の席上で職員から意見や提案を聞き、反映に繋げている。	職員が意見・提案を話し易い雰囲気であり、日常業務の中や各ユニット内での話し合い、カンファレンス会議、勉強会、全体会議時に意見、要望を話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の身体的、健康面に配慮した勤務状況になっており、資格取得による昇給や賞与アップ等、就業規則に細かく書かれている。長年勤めている職員には、法人から表彰もあり、向上心を持って働ける環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップができる様、意見交換をしたり、月に1回の勉強会の開催、資格取得を目指す職員の勤務表への配慮等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	頻度は少ないが、研修会を通じて他事業所と交流する機会を持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者、計画作成担当者が聞き取りを行い、ご家族の困っている事、不安に思っている事を聞き出せる様努めている。入居後も意向を把握し、安心を確保する為の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者、ご家族の意向に沿える様にと考え、不安な事、要望等が聞ける様な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や支援事業所等からの情報の中で、必要な支援を共に考え、少しでも困り事が軽減できる様に支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす時間を大切に捉え、本人の持つ力が更に発揮できる様、支援をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外出も自由で、協力をいただき、定期的に自宅に帰られる方など、関係は築けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ出掛ける頻度は少ないが、面会に足を運んで下さる方には、友人の美容師さん、同じ仕事をしていた方の面会等を頂いている。	知人、友人が訪ねてきた時は、部屋又は居間でゆっくり話ができるよう支援している。馴染みの理・美容院に行ったり、以前参加していた老人クラブや墓参りに家族と一緒にいくなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性の把握を行いながら、時には間を取り持つ事もあるが、自然と関わり合った生活が送れている。		

グループホーム「里の家」1階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の関わりは、自然と希薄になる傾向にあるが、時には入院先へ面会に出向く事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中から、本人の希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合でも表情や仕草から、本人の思いに寄り添える様、意識している。	日々の会話や関わりから思いや意向を把握し、職員で共有している。意思疎通が困難な場合は、表情や仕草などから判断したり、家族等から情報を得て職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や本人、ご家族から頂く情報を元に、日々の過ごし方等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや業務の中で日々変化する心身の状況を職員同士で情報共有し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス、毎月のモニタリングを行い状況に合わせ、本人にとってより良いケアが提供出来る様なプラン作成を心掛けている。	利用者や家族の意向を反映させ、カンファレンス、毎月のモニタリングを行って意見交換し、3ヶ月ごとに現状に即した介護計画を作成し家族の確認印を得ている。状況に変化があればその都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実施、気づきなどを記録に留め、記録を共有する事で、モニタリングやアセスメント、ケアプランに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で必要に応じ、柔軟な対応が出来る様に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	徒歩圏内にある数か所の理美容院は、施設への理解もあり、散歩ついで行ける環境にあります。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に継続して受診している。状況によっては専門医や救急外来を受診し、適切な医療を受けられる様、支援している。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるように支援している。受診時は職員が同行支援し受診結果については、家族に知らせている。母体法人が運営する病院の看護師が週1回来訪し利用者の健康管理、相談等を行っている。	

グループホーム「里の家」1階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体病院と連携し、週に一度看護師の訪問を受け、個々の体調を報告し、相談やアドバイスを受け、受診の勧めを受ける事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を行い、面会時には可能な限り病院関係者との情報交換に努め、安心して治療が出来、更に退院後の留意事項等がより詳しく受けられる様、関係づくりを心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より、重度化に際しての説明を行うと共に、体調の変化が起きた際には、主治医と今後の方向性を確認して頂きながら、事業所で出来る限りの支援を行っている。	契約時に利用者、家族に「重度化した場合における対応に係る指針」に基づき説明し理解を得ている。重度化した場合は主治医の判断を基本に、本人、家族と話し合い事業所でできる精一杯のケアを提供することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を受けて、殆どの職員は救命講習を受けているが、受講出来ていない職員もあり、正しい初期対応が出来る様受講や再度確認等の機会を確保していきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	呼集訓練と年2回の避難訓練を実施している。垂直避難、停電時の備蓄品、持ち出しの薬も準備している。訓練等、町内会との協力体制も築けている。	地域住民、運営推進会議参加者の参加を得て避難訓練(夜間想定)を年2回実施している。又、水害を想定した垂直避難訓練も実施している。火災時の避難場所には法人が運営する名寄三愛病院を指定して連携体制を築いている。食糧等、照明、医療品等を備蓄し、非常電源工事を施工中である。	非常用資機材の備蓄品リスト及び非常用持ち出し備品リストの作成を期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴の声掛け等、プライバシーを尊重し対応しているが、時には配慮に欠けてしまう事もあり、更に意識を高め支援を行っていききたい。	一人ひとりの気持ちを大切に、言葉かけに気をつけ、尊厳や誇りを損ねないケアに努めている。個人情報の書類やデータ管理に注意し、事務所で保管して利用者のプライバシー確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時には、職員主導に傾く事もあるが、入居者ひとり一人の思いや希望の把握に努め、出来る限り自己決定出来る様、働き掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースで過ごして頂く事を意識している。時には職員の都合で希望に沿えない事もあるが、一人ひとりのリズムで生活する事を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容院の付き添いを行い、本人が望むヘアスタイルにしている。洋服や身だしなみへの支援も心掛けている。		

グループホーム「里の家」1階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備への参加は数少ないが、後片付けは自発的に職員と行っている。夏は献立の中に事業所で採れた野菜を添えたり、誕生日や行事等も含め、楽しみのある食事提供を心掛けている。	献立作成と食材を外注し、職員が交代で調理している。利用者の希望を聞いてメニューを変更している。利用者は能力に応じ、調理、茶わん洗い、下膳などを行っている。キノコご飯などの季節のメニューや畑で採れたトマトやキウリなどが食卓を飾り、とうきびなどの差し入れがあり、かぼちゃで団子を作ったり、職員と一緒に食卓を囲み食事を楽しんでいる。外食にも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食量や水分量を把握し、時には補食等を用意し、体調維持に努めている。また、食事開始時間も個人の状態に合わせ支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時に口腔ケアを行っている。不十分な入居者には介助や歯科でも口腔ケアを受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間にポータブルトイレやオムツを使用している方もおられるが、主にトイレを使用されている。排泄の失敗が少なくなる様、間隔や様子を見て、トイレ誘導を行っている。	個々の排泄パターンを記録し、表情、態度などから把握して、適時にさりげなくトイレに誘導し、排泄の自立に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす弊害を考慮し、殆どの方が下剤の処方を受けている。更に、食事や水分、運動や乳製品の摂取も勧めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自から入浴の希望をされる方は少なく、声掛けや間隔を図っての入浴や時間をずらす等で入浴される事が多い。	週2回以上の入浴を基本としている。入浴剤を入れたり、会話をしながら入浴が楽しくなるよう支援している。入浴を嫌う場合は無理強いせず、声掛けする職員を代えたり、入浴日を代えるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の休息や睡眠のリズムを大切に、眠れない様子でも無理に入床は勧めず、本人のペースに任せる様心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの服薬状況を把握出来る様、効果や副作用への注意を申し送りや受診ノートを確認し共有出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意とする家事仕事や好む活動を役割として、仲間や職員と取り組んでいる。		

グループホーム「里の家」1階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その都度、希望に沿っての外出は難しいが、予定を立てての外出や、日常の中での散歩は行っている。	天気の良い日は散歩したり中庭での外気浴、花見や紅葉見学、ドライブを兼ねて白鳥を見学したり、家族と一緒に外食に行くなど、日常の生活に潤いと変化のある生活を提供するよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事大切さを理解しているが、現在の所お金を所持している方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に電話のやりとりをされている方はいない。定期的に家族から手紙が送って来られる方はいるが、やりとりには至っていない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夕方から夜間帯に掛けて、不穏になり易い利用者の方も居られ、刺激にならない様に配慮している。ひな人形や七夕、クリスマス等、季節感が出るよう工夫している。	居間、食堂、小上がり(和室)は一体的で明るく、家庭的でゆったりと寛げる空間となっている。温度、湿度などを適正に管理し、不快や刺激がないよう配慮している。大学の実習生と利用者が一緒に作ったちぎり絵や折り鶴を飾ったり、七夕、ひな人形などを季節に応じ飾りつけ季節感を感じるよう工夫している。又、中庭には桜、紅葉、つつじ、アジサイなどがあり、外気浴をしたり季節の移り変わりを感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で気の合った同士が思い思いに過ごせており、自然と居場所が出来ている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持参して頂き、居心地の良い居室になる様、配慮を行っている。	使い慣れたテレビ、ソファ、いす、ベット、家具などを持ち込み、家族の写真を飾って、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、手すりは必要か所に設置し安全した生活に繋がる様に工夫されている。		